炭素税と炭素クレジット

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

炭素価格付け法と上昇する価格経路

シンガポールは2019年1月1日、東南アジアで初めての炭素税を導入しました。その法的根拠は2018年炭素価格付け法（Carbon Pricing Act 2018）とその規則です。同法は、報告基準を超える施設に対して登録と排出量の報告を義務付け、年間で二酸化炭素換算2万5,000トン以上を排出する施設を課税対象としています。[1] 炭素税は、主に石油精製、石油化学、発電および半導体の分野の約50の施設に課されており、国内排出量の約70%をカバーしています。燃料物品税と合わせると、排出量の約80%に価格が付けられています。[2]

価格経路は、この制度が発する主要なシグナルです。税率は2019年から2023年まで1トン当たり5シンガポールドルとされ、2024年と2025年については25シンガポールドルに引き上げられました。2026年と2027年は45シンガポールドルであり、2030年までに1トン当たり50〜80シンガポールドルに達することが見込まれています。この価格経路を実施する同法の改正は2022年11月8日に議会で可決され、改正規則は2024年1月1日に施行されました。[3]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

税率の引上げには、貿易にさらされる産業の保護が伴いました。移行枠組みの下で、排出集約的かつ貿易にさらされる企業は、排出量の一部について排出枠の無償割当てを受けます。その量は、国際的に認められた効率性ベンチマークに照らした実績によって決まります。新規投資はこの枠組みの対象となりません。[4] ジュロン島の製油所や石油化学コンビナートは、第G部第II章でアジアの石油市場における役割を説明しているとおり、さもなければ近隣諸国の競合他社が負担しないコストに直面することになります。この割当ては、追加的な排出に対する限界的な価格シグナルを維持しつつ、カーボン・リーケージを抑制するものです。

シンガポール自身の排出量は、世界全体から見れば小さなものです。2022年には5,325万トン、住民1人当たり8.9トンであり、世界全体の約0.1%にとどまります。[5] 炭素税が重要なのは、世界の排出量への影響よりも、それが生み出すものにあります。すなわち、国内の価格、炭素クレジットに対するコンプライアンス需要、そして炭素市場が機能するための法的枠組みです。

国際炭素クレジットとパリ協定第6条

2024年1月1日以降、課税対象施設は、課税対象排出量の最大5%を相殺するために、質の高い国際炭素クレジットを利用することができます。クレジットは、パリ協定第6条に基づくルールに準拠し、環境十全性に関する七つの原則を満たさなければなりません。第6条は、ホスト国が移転を承認し、同一の削減が二重に計上されないよう相当調整を行うことを条件として、国家間で排出削減量を移転することを認めています。2016年9月21日にパリ協定を批准したシンガポールは、この制度における最も積極的な買い手の一つとなっています。[6]

政府は、アフリカ、アジアおよび中南米のホスト国と実施協定を締結しています。公式ポータルには、ガーナ、ブータン、ペルー、ルワンダ、タイおよびモンゴルとの運用中の協定が掲載されています。また、2026年6月8

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

日に署名されたフィリピンとの協定と、2026年9月4日に署名されたラオスとの協定という新たな協定も記録されています。国家環境庁（National Environment Agency）は、署名済みの実施協定は合計11件であるとしています。この数字には、ポータル上でまだ運用中として掲載されていない協定も含まれています。いくつかの協定に基づきプロジェクトの公募が行われており、最新のものは2026年10月8日のモンゴルとの公募です。[7]

政府は自らの勘定でもクレジットを購入しています。2025年10月には質の高い炭素クレジットに関する第2回の提案依頼を開始し、2025年11月には国家環境庁が環境十全性の評価を支援する炭素格付サービス提供者を任命しました。この種の購入は、シンガポールが国家目標を達成することを助けるためのものです。再生可能資源の限られた小さな島は、国内での削減だけでは目標を達成できないからです。未使用の相殺枠については、詳細な経過規定が設けられています。2025年の排出年度から2026年に繰り越される枠は、旧税率と新税率の比率、すなわち25シンガポールドル対45シンガポールドルで換算されます。[8]

炭素取引所とボランタリー市場

コンプライアンス市場と並んで、ボランタリー市場があります。法的義務がないまま自らの気候目標を達成するためにクレジットを購入する企業には、取引の場、基準および格付が必要です。シンガポールはそれらを誘致しようとしました。炭素取引所兼マーケットプレイスであるClimate Impact Xは、2021年にDBS、シンガポール取引所、Standard Charteredおよびテマセクによって設立されました。[9] 炭素クレジットを取引するその他のプラットフォームも、シンガポールに拠点を構えています。

ボランタリー市場は近年、信頼の危機に見舞われています。ジャーナリストや研究者による調査が、多くの森林保護クレジットの十全性に疑問を投げかけたためです。これに対するシンガポールの対応は、自国の制度を高い基準に結び付けることでした。MASは脱炭素化計画の一部としての炭素

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

クレジットの利用に関するガイダンスを公表し、2026年のEcosperity会議では買い手の連合であるAction for a Resilient Climate（ARC）連合が発足しました。2025年10月、MASは金融機関による炭素市場活動の発展を支援するため、金融セクター炭素市場開発補助金（Financial Sector Carbon Market Development Grant）を導入しました。[10]

金融センターのビジネスとしての炭素市場

金融センターにとって、炭素市場は既存のいくつかの事業を結び付けるものです。第G部で説明したとおり、その多くがシンガポールにアジア本部を置くコモディティ・トレーダーは、多くの点でコモディティのように振る舞うこの資産クラスに、オリジネーション、ロジスティクスおよびリスク管理のスキルを持ち込みます。銀行はトレードファイナンスとヘッジを提供し、弁護士は購入契約やプロジェクト文書を作成し、検証・格付会社は買い手が依拠する評価を提供します。パリ協定第6条の枠組みは、公法の層を加えます。各移転には主権国家であるホスト国の承認が必要だからです。第F部で検討する、国境を越えた契約の中立的な場としてのシンガポールの経験は、ここで強みとなります。

リスクもまた、なじみのあるものです。炭素クレジットは無形であり、その質は反実仮想的な前提に依存し、信頼が失われればその価値は暴落しかねません。第H部第II章で取り上げる2020年の現物コモディティ取引における詐欺は、書類が検証に取って代わったときに何が起こるかを示しています。同じ教訓は、その存在が測定と登録簿の記載に依存する資産にも当てはまります。格付、相当調整および政府間協定の重視は、市場を検証可能な事実に根付かせようとする意図的な試みです。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. Carbon Pricing Act 2018（2018年法律第23号）、報告対象施設および課税対象施設の登録（報告基準は年間2,000 tCO2eとされる）ならびに炭素税に関する規定。 ↩
2. Wikipedia, “Climate change in Singapore”（2026年11月最終閲覧）：シンガポールは2019年1月1日に東南アジア初の炭素税を導入し、当初の税率は二酸化炭素換算1トン当たり5シンガポールドル。— National Environment Agency, “Carbon Tax”, nea.gov.sg（2026年11月最終閲覧）：炭素税は2019年1月1日に炭素価格付け法とその規則により導入された。— National Climate Change Secretariat, “Carbon Tax”, nccs.gov.sg（2026年11月最終閲覧）：年間2万5,000 tCO2e以上を直接排出する施設が課税対象。“around 70% are covered by the carbon tax levied on about 50 facilities”、“About 80% of our total greenhouse gas (GHG) emissions are covered by carbon tax and fuel excise duties”。 ↩
3. NCCS、前掲“Carbon Tax”、およびNEA、前掲“Carbon Tax”：2019年から2023年は1トン当たり5シンガポールドル、2024年および2025年は25シンガポールドル、2026年1月1日から2026年および2027年は45シンガポールドル。“with a view of reaching $50 to $80 per tonne by 2030”。— NEA、前掲“Carbon Tax”：炭素価格付け法は2022年11月8日に改正され議会で可決された。2023年10月6日に公布された改正規則は2024年1月1日に施行された。 ↩
4. NCCS、前掲“Carbon Tax”：移行枠組みに基づく割当ては“internationally-recognised efficiency benchmarks”に照らした実績により決定される。“New investments will not qualify for the transition framework.” ↩
5. Wikipedia、前掲“Climate change in Singapore”：2022年の総排出量は5,325万トン、1人当たりCO2排出量は8.9トン。シンガポールは世界の排出量の約0.1%を占める。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

6. NCCS、前掲“Carbon Tax”、およびNEA、前掲“Carbon Tax”：質の高い国際炭素クレジットにより“up to 5% of their taxable emissions from 2024”を相殺できる。— NCCS、前掲“Carbon Tax”：適格なクレジットは“will need to comply with rules under Article 6 of the Paris Agreement, and meet seven principles”。— Wikipedia、前掲“Climate change in Singapore”：シンガポールは2016年4月22日にパリ協定を採択し、2016年9月21日に批准した。 ↩

7. Singapore Carbon Market Cooperation, carbonmarkets-cooperation.gov.sg、ホームページおよびニュースルーム（2026年11月最終閲覧）：ガーナ、ブータン、ペルー、ルワンダ、タイおよびモンゴルとの実施協定が運用中。フィリピンとの実施協定は2026年6月8日、ラオス人民民主共和国との実施協定は2026年9月4日に署名。— NEA、前掲“Carbon Tax”：政府は“11 Implementation Agreements (IAs)”に署名している。— Singapore Carbon Market Cooperation、前掲ニュースルーム：ペルー（2025年10月24日）、ブータン（2025年11月20日）、ルワンダ（2026年1月30日）、タイ（2026年3月31日）およびモンゴル（2026年10月8日）とのプロジェクト公募。 ↩

8. Singapore Carbon Market Cooperation、前掲ニュースルーム：質の高い炭素クレジットに関する第2回の提案依頼は2025年10月31日に開始。NEAによる炭素格付サービス提供者の任命は2025年11月7日。— NEA、前掲“Carbon Tax”：2025排出年度の未使用枠は換算係数“(A – B) x ($25/$45)”を用いて2026排出年度に繰り越すことができる。一方、2024排出年度から2025排出年度に繰り越された枠は失効する。 ↩

9. Climate Impact Xは、2021年にDBS、SGX、Standard Charteredおよびテマセクによって設立された。 ↩

10. MAS、前掲*Sustainability Report 2025/2026*, “Strategy”：脱炭素化計画の一部としての炭素クレジットの利用に関するMASのガイダンス。業界主導の買い手連合は、Ecosperity 2026で発足したAction for a Resilient Climate（ARC）連合に結実した。— MAS、前掲*Sustainability Report*

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

2025/2026, “Strategy”：MASは2025年10月にFinancial Sector Carbon Market Development Grantを開始した。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.